

平成 28 年度 水土文化研究部会企画セッション

「仙台藩の地域づくりにおける水土の知」

日時： 平成 28 年 8 月 31 日（水）
13 時 40 分から 15 時 20 分

場所： ホテル法華クラブ仙台 4 階 葵の間（第 3 会場）
仙台市青葉区本町 2-11-30

内容・講演者

- 1) 仙台藩の「水土の知」-大崎耕土を中心に-
加藤 徹（NPO 法人あぐりねっと 21）
- 2) 元禄潜穴と品井沼干拓にみる「水土の知」の源流
田村孝浩（宇都宮大学）
- 3) 大堰と内川の歴史的価値について
青木 幹（大崎土地改良区）

企画セッションの概要

仙台藩は宮城県全域と岩手県南部などを治め、18 世紀には石高が 100 万石に達した。これは農業基盤の整備が進んだことを意味する。そこには、北上川流域の湿地帯の干拓、排水事業による新田開発や疎水開削などの農業水利施設の整備があげられる。本セッションでは、江戸時代の仙台藩によって整備された農業水利施設を対象にその特徴を議論する。

オーガナイザー：農研機構 農村工学研究部門 後藤 眞宏